



保険証廃止をめぐる問題点②

現行の健康保険証を残すことが必要である意味を戸井逸美政策部長が解説する。

資格確認が9種類に

政策部長 戸井逸美

資格確認の方法が9種類に
 今までの健康保険証1枚で、患者と医療機関双方に実務的な支障はなかった。これまで通り保険診療を受けることは可能だ。ところが、マイナンバーカードと健康保険証の一体化、そして今までの健康保険証が廃止されることに伴い、医療機関の窓口で被保険者の資格

を確認する方法が9種類に増えることになった。運転免許証も一体化へ
 政府はマイナンバーカード取得促進のため、保険証以外にもマイナンバーカードへの情報の紐づけを拡大しようとしている。運転免許証、図書カード、子ども医療費などの受給者証や診察券、在留カードなどである。申

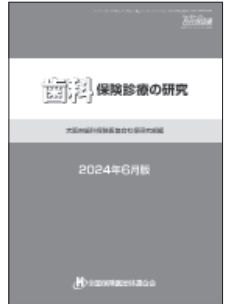
請については、出生届とマイナンバーカードの申請書を一体化することなども議論されている。マイナンバーカードが便利だから活用が広がるというにはなっていないが、マイナンバーカードを使わないと生活していかないような不便な状況を、政府自身が作りださうとしているのが実態だ。数々のトラブルが起

かかわらず、現行の健康保険証を見切り発車で廃止しようということも、一連の政府の思惑だ。これを許していいのか。保険証残せの運動が他分野の行く末を決める健康保険証のマイナンバーカードへの一体化の強制を阻止する運動が今後、他の分野にまで情報の紐づけを拡大することになる。医療界がここで踏みとまれるかどうか、今後の日本社会の行く末を決めると言っても過言ではない。

被保険者の資格確認方法 (2024年3月24日現在)

- 1 健康保険証
- 2 マイナ保険証
- 3 顔認証マイナカード
- 4 次期マイナカードと被保険者情報を紐づけたマイナ保険証
- 5 マイナ保険証をスマホに搭載したもの
- 6 資格確認書
- 7 マイナ保険証+資格情報のお知らせ
- 8 マイナ保険証+被保険者情報をスマホにダウンロードしたもの
- 9 マイナ保険証+資格申立書

「歯科保険診療の研究」(2024年版) お届けは6月末頃



災害募金 お礼
 ご協力ありがとうございました。
 229万円、全額を石川県、富山県、新潟県に送金しています。

ある。(N)



評議員会への出席者＝5月25日、ホテルモントレ

第60回通常評議員会

診療報酬再改定めざし 決意固め合う

協会は第60回通常評議員会を5月25日、ホテルモントレグラスミア大阪で開き、2023年度決算報告および監査報告・24年度予算を全員一致で可決した。また、その他議案「理事解任の件」を賛成多数で可決した。診療報酬再改定を要求し、患者の受療権を守るよう決議を採択した。南端理伸評議員(大阪市西部地区)が議長を務めた。

小澤力理事長は23年度の協会活動を報告した。保団連・協会は、今回のベースアップ評価料など医療機関の経営への政府の介入や、強引なマイナ保険証推進策のために改定財源を割くのではなく、本来の診療報酬の意義である、国民に提供する歯科保険医療の向上を求め期中改定も含め運動を強めていくとした。

平野権栄理事は1号議案、23年度決算報告を提案した。歳入では構成比の約8割を占める会費収入で99%とほぼ予算どおりを確保し、新会館建設募金で299万円の協力を

が寄せられたとの報告があった。歳出では事業費の運動費で「保険証を残せ!署名」の取り組み等を強め、超過執行となったことを説明した。

2号議案・24年度予算案の提案では、会費収入について前年度実績を踏まえ新規入会を104人と見込むものの、協会の魅力をおおいに伝え超過達成を目指したいとの報告があった。歳出では6千万円の会館建設積立金を取り崩し来年1月には旧会館の解体作業に入る旨説明があった。

評議員からは、マイナンバーシステム・マイナ

保険証の問題について、齋賀史郎評議員(北大阪地区)が、強制反対の協会運動の強化を求めるよう発言したほか、福西啓八評議員(大阪市西部地区)が、会計検査院の調査でマイナシステムは自治体でも利用が進んでいない点を指摘していると発言があった。小澤理事長が答弁し、協会の取組を旺盛に進めていくにあたって、協力の呼びかけがあった。

採決では第1号、2号議案については全員一致で可決した。その他の議案として提案された理事解任の件については賛成多数で可決された。最後に決議「診療報酬再改定を要求し、患者の受療権を守るよう求める」を採択した。出席は評議員23人、役員19人だった。

「保険証を残してほしい」街頭宣伝
 若者も「手続き面倒」
 協会は11日、近鉄難波ビル前で「現在の健康保険証を残して欲しい」との横断幕を掲げ、同内容の署名活動に取り組んだ。小澤力理事長、戸井逸美、富本昌之、矢部あづさ各副理事長、江原



街頭で訴える富本副理事長
 署名を呼びかける段野理事

協会は11日、近鉄難波ビル前で「現在の健康保険証を残して欲しい」との横断幕を掲げ、同内容の署名活動に取り組んだ。小澤力理事長、戸井逸美、富本昌之、矢部あづさ各副理事長、江原

「転勤族だが、全国どこでも受診できる今の保険証で十分だ。情報漏洩も怖い」と語った。また別の府民は、「マイナンバーカードは持っているが保険証は紐づけしていない。保険証がなくなると困る」とし、家族の分も「署名したい」としてペンを走らせた。「医療機関では補助金があると二ユースでも見たが」と話しかけてきた府民は、「医療機関で(マイナ保険証を)勧められれば、持った方がいいのかもしれない」と語った。若者のグループは「手続きも面倒だ。今まで使っていた保険証がいい」と話し署名に協力した。協会は今月も理事会前に街頭宣伝を予定している。

「転勤族だが、全国どこでも受診できる今の保険証で十分だ。情報漏洩も怖い」と語った。また別の府民は、「マイナンバーカードは持っているが保険証は紐づけしていない。保険証がなくなると困る」とし、家族の分も「署名したい」としてペンを走らせた。「医療機関では補助金があると二ユースでも見たが」と話しかけてきた府民は、「医療機関で(マイナ保険証を)勧められれば、持った方がいいのかもしれない」と語った。若者のグループは「手続きも面倒だ。今まで使っていた保険証がいい」と話し署名に協力した。協会は今月も理事会前に街頭宣伝を予定している。

令和6年4月1日より障害者差別解消法改正により

